

【 講演 】

知っておきたい身近なヤングケアラー ～長野県 SSW からの報告～

弓田 香織（長野県教育委員会事務局 南信教育事務所 学校教育課・
スクールソーシャルワーカー(SSW)スーパーバイザー、社会福祉士）

2021年秋に長野県教育委員会により実施されたヤングケアラー調査により、本県にもヤングケアラーが多数存在することが判明した。全国調査と同様の傾向を示す調査項目もあれば全国とは異なる項目もあり、地域ごとに特徴を捉えた対策が必要なことを示唆するものであった。調査結果及びSSWとして出会うヤングケアラーとその家族の状況、そして自らが生育の中で感じてきたことに触れながら、各立場でヤングケアラーについてできることや持っておきたい視点について思いを巡らせていただく機会としたい。

【 特別講演 】

求められるヤングケアラーへの支援

森田 久美子（立正大学 社会福祉学部・教授、
一般社団法人日本ケアラー連盟理事）

病気や障害のある家族の世話をする、ヤングケアラーと呼ばれる子どもを支援する取り組みが始められています。ヤングケアラーについて、2021年4月に改正された「子供・若者育成支援推進大綱」は「一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に担っている児童」と説明し、「困難を有する子供・若者とその家族」に位置づけて、国として対応する方針を掲げています。これを受けて、厚生労働省はヤングケアラーの支援策をとりまとめ、長野県をはじめとするいくつかの自治体では、ヤングケアラーを支援する先駆的取組みを始めています。

家族の世話をしている子どもは、これまでも存在していましたが、彼らにヤングケアラーという名前がつけられ、社会全体で応援することの必要性が議論されるようになったのは、つい最近のことです。これまで、ヤングケアラーについては、「家族のことは家族で対応しなければならない」といった家族規範や偏見やいじめへの恐れ、どこに相談したらよいかわからない等の理由から表面化しづらく、彼らが直面している課題は周囲の人々に気づかれづらい状況にありました。一方、ヤングケアラーは、適切な支援を得られない場合、家族の世話をすることで、良くない影響を受けることがあります。

そこで、本講座では、ヤングケアラーとはどのような子どもか、ヤングケアラーへの社会的対応の必要性が議論される社会的背景、ヤングケアラーの実態等を見ていくことを通じて、ヤングケアラーが健やかに育つことを支える社会の実現に向けて、地域にいる私たちにできることは何かについて考えていきます。